

## 在セネガル日本国大使館月報

2020年1月

### 主な出来事

#### セネガル

##### (内政)

- 8日、オリンピック委員会は、ダカール・ユースオリンピックを2022年10月22日から11月9日に開催することを決定した。

##### (日本関連)

- 23日、天皇陛下誕生日レセプションが開催され、60周年を迎える日・セネガル外交関係も祝福された。新井大使はセネガル新興計画(PSE)の成功のため人材育成や技術移転等の協力を継続すると述べ、バルデ農業大臣は日本の様々な協力を謝意を表明した。

##### (外政)

- 28日、トルコのエルドアン大統領夫妻は企業関係者等と共にセネガルを公式訪問。2度目となる今次訪問では、文化、保健、教育、防衛、移民政策、災害管理、スポーツの分野で計7つの文書が署名された。

##### (経済)

- 10日、IMF理事会が、セネガルの経済政策調整インストルメントへの参加を正式に承認した。

#### ガーボベルデ

- 7日、カーボベルデ政府は、近年の干ばつのため2020年10月までの給水緊急事態を宣言した。この期間中、一定時間の給水制限が実施される。

#### ガンビア

- 26日、バンジュールで反政権派数百名によるデモがあり、137名が逮捕された。

#### ギニアビサウ

- 17日、CNEは、大統領選挙第二回投票の暫定結果を最終結果とし、エンバロ候補が新「大統領」に当選した旨のコミュニケを発出した。
- 17日、米国は、CNEによる大統領選挙の最終結果発表を受け、エンバロ新「大統領」に祝辞を送った。
- 22日、ECOWASはギニアビサウ大統領選挙に勝利したエンバロ候補に祝意を表明した。

#### セネガル

##### (内政)

##### 内政一般

- 3日、ハリファ・サル前ダカール市長はウスマン・ソンコと会談した。同前市長は、カリム・ウッド元大統領に続き、政界関係者との会談を重ねている。(6日 RFI)
- 8日、オリンピック委員会は、ダカール・ユースオリンピックを2022年10月22日から

- 1 1月9日に開催することを決定した。同オリンピックでは、2020東京五輪及び2024パリ五輪と同様35種目が競われる。(8日 Panapress)
- 9日、サル大統領は、法廷再開式に出席し、不平等拡大は過激主義を生むと述べ、経済発展は包摂的でなければならない旨述べた。また、テロの資金源やインターネットでのプロパガンダを含め様々なテロの課題に対処できるよう新たなテロ対策法案を提出予定である旨述べた。(10日 Le Quotidien)
- 14日、「国民対話」の運営委員会が発足した。2019年5月にサル大統領が再選後に発表した同対話には、100名以上の政治界・市民社会からの参加者が参加する。(17日 Le Soleil, RFI)
- セネガル保健・社会活動省は、コロナウィルスの感染防止のため、空港を中心とする国内での監視の強化、保健医療関連機関への関連情報の提供等の対策を強化している。(23日 Le Soleil 他)
- コロナウィルスによる感染症予防対策として、ブレーズ・ジャーニュ空港でサーモカメラによる監視が開始されている。(27日 Le Soleil)

#### 治安関連・社会動静関連

- 特になし。

#### (外政)

#### 二国間関連

- 6日、カン駐米セネガル大使(元石油・エネルギー大臣)は、トランプ大統領に信任状を奉呈し、特に米国企業の進出といった経済関係の強化を重視し、世界の安全保障強化で協力していきたい旨述べた。(10日 Le Soleil)
- サル大統領は訪問中のトーゴで行ったインタビューで、サヘル地域でのフランス及び国際社会のテロとの戦いに連帯の意を示し、仏軍等への批判はテロリストを利するだけであると述べた。(20日 Le Soleil)
- チャム水大臣と駐セネガル韓国大使は、20日、マリクンダのタクームで新給水施設の完成式典に出席。1.88億f C F Aを要したこの施設により8千人以上が飲料水へのアクセスを得る。(21日 Le Soleil)
- 20日、ロンドンで開催された英アフリカ投資サミットに出席したサル大統領は、ジョンソン首相との会談で、両国の友好関係を更に強化させることで一致。セネガルは全てのパートナーに等しく開かれており、英国のEU離脱による影響はないと強調した。サル大統領はまた、伝統的ビジネスから脱却し、D F I Dによる民間企業への財政支援メカニズム等の新たな協力の枠組みが必要と述べた。ホットウ経済・計画・協力大臣とスタンダード・チャータード銀行グループ総裁との間では、ジャムナジョのオリンピックスタジアム建設のための2.38億ユーロ超の貸付契約が署名された。(21日 Le Soleil 他)
- 22日、サル大統領はダボス会議に出席し、①アフリカの経済成長、②生物多様性の保護及び③アフリカにおける中小企業1億社創設のためのプラットフォームの立ち上げの3つのパネルに参加した。サル大統領は、①の「Africa Twin Challenge」パネルでは、アフリカ諸国の債

務は、経済成長・社会福祉の増加につながるものであれば懸念に当たらないとの見方を繰り返したほか、②の生物多様性に関するパネルでは、多くの種が失われつつあることに危機感を示し、ダボス会議は環境的側面にも配慮すべきと述べた上で、パリ協定が定める法的・財政的貢献の実施を各国に促した。(23日 Le Soleil 他)

- 23日、バ外務・在外セネガル人大臣とルドリアン仏外務・欧州大臣はパリで会談し、サヘル地域におけるテロとの戦い等の安全保障問題について協議した。(24日 Le Soleil)
- 平和とグッドガバナンスへの貢献により韓国の2020年鮮鶴平和賞を授賞するサル大統領は、賞金3億CFAをAUの平和基金に寄付する。(27日 Le Soleil)
- 28日、トルコのエルドアン大統領夫妻は企業関係者等と共にセネガルを公式訪問。2度目となる今次訪問では、文化、保健、教育、防衛、移民政策、災害管理、スポーツの分野で計7つの文書が署名され、両首脳は更なる関係強化の意向を確認。前回訪問時に設定した貿易額4億ドルの目標は達成され、両首脳は次なる貿易額の目標を10億ドルに定めた。国際空港や会議場につき、ユース・オリンピックのスタジアムもトルコ企業が建設予定。(28・29日 Le Soleil 他)

### 国際情勢・国連機関支援等

- セネガルは、シエラレオネ及びAU委員会とともに、第8回C10閣僚会合の議長を務める。これは、2月の第33回AU首脳会議における議論に先立ち行われるもの。これに先立つ12日(日)には、高級事務レベルの各本国代表、AU及び国連の常駐代表大使による準備会合が行われる。(11日 Le Soleil)
- 13日に行われたC10閣僚会議にはサル大統領やバ外相、関係国の閣僚が参加し、拒否権を有する常任理事国二議席と非常任理事国二議席を求めるというアフリカ共通ポジション(CAP)を再確認した。(14日 Le Soleil)

### 日本関連

- 7日、海外協力隊帰国会が開催され、新井大使は、2020年は海外協力隊派遣40周年となるが、40年間で1200名の海外協力隊がセネガルに派遣された、日・セネガル外交関係60周年となる2020年に太鼓演奏等の文化事業で更に両国関係を強化したい旨述べた。(8日 WalfQuotidien, 9日 Le Soleil, 9日 Le Quotidien)
- 2020年、日本とセネガルは、外交関係樹立60周年及びJOCV派遣40周年を迎える。記念すべき年を迎え、バ外相、新井駐セネガル日本大使、ジュフ俳句コンクール審査委委員長及びセックCFPT校長がメッセージを送った。(14日 Le Soleil)
- 16日、CFPT開校35周年記念式典が行われ、ジョップ雇用・職業訓練・手工業大臣及び駐セネガル新井大使が出席した。(17日 Le Soleil)
- 19日、13名の新たな日本の海外協力隊員が様々な分野での活動を開始した。新井大使は、協力隊員はセネガルの開発において重要な役割を果たしており、各派遣先コミュニティにおいて日本の「大使」として活躍してほしいと呼びかけた。チャム大統領府技術局長は、日本が1980年以來40年間にわたって派遣してきた協力隊員の二国間関係への貢献を強調した。(20日 Le Soleil)

- 21日、ラリードライバーの篠塚健次郎氏は、ヨフの篠塚小学校を訪れ、文具を寄付した。同氏は18年前の同校創立以来毎年訪問し、支援を行っている。(22日 Le Soleil)
- 23日、日本大使公邸で天皇陛下60歳を祝うレセプションが開催され、60周年を迎える日・セネガル外交関係も祝福された。新井大使はセネガル振興計画(PSE)の成功のため人材育成や技術移転等の協力を継続すると述べ、バルデ農業大臣は日本の様々な協力を謝意を表明した。(25日 Le Soleil)
- ユース・オリンピック1000日前のイベントに出席した新井大使は、2020年の東京オリンピックと2022年のダカール・ユースオリンピックの成功に向け両国で緊密に協力していきたいと述べた。(27日 Le Soleil)
- 18日、新井大使は、日本のNGOムラのミライがンブル県のバガナ村等で実施している農業生産向上のためのプロジェクトを視察。プロジェクトの裨益者は、ムラのミライを通じてもたらされた技術によって農業生産性が大きく向上したとして、同NGOの支援を高く評価した(30日 Le Soleil)

## (経済)

### 経済一般

- 8日、政府は、Sangomar 油田の開発を許可した旨発表した。2023年に採掘が開始予定で、10万バレル/日が見込まれている。(10日 Le Soleil) 14日、Sangomar 石油開発プロジェクトの第一フェーズが着工された。実際の石油の採掘は2023年始めを予定している。同フェーズにおいては、2億3000万バレルの石油の採掘を目指している。(15日 Le Soleil)
- 10日、IMF理事会が、セネガルの経済政策調整インストルメントへの参加を正式に承認した。IMFは、たとえ公的債務が増えて経常収支の赤字が拡大していても、セネガル経済の見通しは明るいと評価し、2020年から2021年の経済成長率を7%と予想した。(14日 Le Soleil)
- 27日、ガスに関する法律案が国会で承認された。シセ・エネルギー大臣は、「同法律案は、将来のエネルギー・ミックスを見据えた管理の向上と透明性強化に資すると述べた。(28日 Le Soleil 他)
- 29日、モーリタニア、セネガル、ガンビア、ギニアビサウ及びギニアの5か国による油田に関する第4回首脳会合(於：ダカール)に出席したサル大統領は、更なる油田開発の可能性を指摘し、地元企業の参画を促進するための人材育成の必要性を強調した。サル大統領は、また、2022年にガス、2023年に石油の生産を開始するという目標遵守のための行政改革をシセ・エネルギー大臣等に命じた。(30日 Le Soleil, Le Quotidien)

### インフラ関連

- 特になし。

### **カーボベルデ**

- 7日、カーボベルデ政府は、近年の干ばつのため2020年10月までの給水緊急事態を宣言

した。この期間中、一定時間の給水制限が実施される。(8日 Panapress)

## ガンビア

- 7日、ガンビアは西サハラのだフラに総領事館を開設し、開設式典にはブリタ・モロッコ外相及びタンガラ外相が出席した。タンガラ外相は、ガンビアがだフラに外交使節を設置したアフリカ最初の国であることから、この開設式典は「歴史的出来事」であり、モロッコはサハラに対して主権を行使しており、領事館を開設するというガンビアの決定は、国連総会及びモロッコの領土保全を支持する他の国際フォーラムで表明してきた立場に一致する旨述べた。(7日 国営MAP通信)
- 赤道ギニアに亡命中のジャメ前大統領は、ガンビアへの帰国に向けて、自身の支持政党である愛国再建同盟(APRC)の支援を求めている。(12日 Africanews)
- 26日、バンジュールで反政権派数百名によるデモがあり、警察とデモ隊が衝突。市内の病院関係者によるとデモ参加者3名が死亡したが、同日夜、ガンビア政府は死者の発生を否定。137名が逮捕された。(27日 RFI)
- ガンビア政府報道官は、大統領に対するクーデターを企てたとして市民団体「3 years Jotna」の集会を禁止したと発表した。(28日 RFI)

## ギニアビサウ

- 3日、ペレイラ候補は、大統領選挙第二回投票に不正があったとして、暫定結果に対する異議申し立てを最高裁に提出した。(1月4日 RFI)
- 3日、ギニアビサウ大統領選挙の暫定結果で当選したエンバロ候補は、セネガルを訪問し、サル大統領と会談した。エンバロ候補は、自身の困難な時期でのサル大統領の支援に感謝した。サル大統領は、エンバロ候補と両国関係を強化していきたい旨述べた。(4・5日 L' Observateur)
- 14日、国家選挙委員会(CNE)は、大統領選挙第二回投票の集計結果をまとめた報告書を裁判所からの求めに応じて提出した。PAIGCは、同報告書の内容に誤りがあるとして最高裁に異議申し立てを行った。(16日 RFI)
- 17日、CNEは、大統領選挙第二回投票の暫定結果を最終結果とし、エンバロ候補が新「大統領」に当選した旨のコミュニケを発出した。(17日 Radio Jovem)
- 17日、米国は、CNEによる大統領選挙の最終結果発表を受け、エンバロ新「大統領」に祝辞を送った。(17日 odemocratagb)
- 22日、ECOWASはギニアビサウ大統領選挙に勝利したエンバロ候補に祝意を表明した。(22日 AFP他)
- 24日、バルボザ外務・共同体大臣はゴメス首相に辞表を提出した。(24日、ギニアビサウ外務省発表)

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。 (了)